

○ ビワヨウ (枇杷葉)

語源

学名 ビワ属 *Eriobotrya*：ギリシャ語の「羊毛」(erion)＋「ブドウの房」(botrys)、すなわち、羊毛のように毛に覆われた房状の果実になることから由来する。

種小名 *japonica*：「japonicus=日本の」という意味。
和名のビワは、中国名 枇杷 *Pipa* の音読み。枇杷は楽器の琵琶に似ているので名づけられたとされているが、葉形か果実の形かいずれに由来するのかは定かではない。



基原

Eriobotrya japonica Lindley ビワ

バラ科 常緑高木

日本には9世紀前後に渡来したとされている。日本にも自生種はあったが、果実が小さく食用としての価値は低かったという説がある。江戸中期には農村でも果樹として栽培されるようになり、さらに幕末になって大果のビワが清国から長崎に伝えられてから後、日本各地に普及した。

薬用部分

葉

産地

中国(広東、広西、江蘇、浙江、四川など)、日本(四国)

主な成分

トリテルペノイド：ウルソール酸、オレアノール酸など
セスキテルペン：ネロリドールなど
その他：アミグダリン、糖類、タンニン、有機酸など



主な薬効

鎮吐、抗炎症、利尿、鎮咳

代表的処方

鎮咳、去痰、利尿、健胃、鎮嘔薬として、長期間続く咳、暑気あたり、浮腫などに用いる。また民間的に皮膚炎やあせもに葉を煎じた汁で湿布したり、入浴剤として用いる。

【甘露飲】

カンロイン

体力中等度以下のものの次の諸症：口内炎、舌の荒れや痛み、歯周炎

(処方内容) 熟地黄／乾地黄／麦門冬／枳実／甘草／茵陳蒿／枇杷葉／石斛／黄芩／天門冬

【辛夷清肺湯】

シンイセイハイトウ

体力中等度以上で、濃い鼻汁が出て、ときに熱感を伴うものの次の諸症：鼻づまり、慢性鼻炎、蓄膿症(副鼻腔炎)

(処方内容) 辛夷／知母／百合／黄芩／山梔子／麦門冬／石膏／升麻／枇杷葉

【枇杷清肺飲】

ビワセイハイイン

顔・鼻にばらばら小さなでき物やにきびができ、赤色腫痛し、破れると白粉汁を出すものに用いる。

(処方内容) 枇杷葉(蜜炙 ※みっしゃ：蜂蜜と共に空炒りしたもの)／桑白皮／黄連／黄柏

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「漢方のくすりの事典」「日本薬草全書」「家庭の民間薬・漢方薬」「一般用漢方製剤承認基準」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力

福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11

TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562

URL: www.fukudaryu.co.jp